

# 活動的な赤城山コース

大高竜亮

精力的なコース維持と教育現場での活用。そんな群馬・赤城山に新しいコースが登録された。

赤城山」コース 群馬県 No.60  
JOA 公認 No.300 8.5 km 10 ポスト

## 歴史ある新コース

積極的な更新が続き、ファンとしては目が離せない群馬県下のパーマネントコース。今回はこの春にショートコースが新たに登録された「赤城山」コースを紹介します。

公認が区切りの 300 番というこのコース。開設されたのは昭和 50 年 3 月 17 日のこと。同じ日に認定されたのが鹿児島県の「大浦町亀ヶ丘」「開聞」と福井県の「武生越前の里」「芦原北潟湖」の 4 コース。いずれもすでに廃止されてしまっていることを思うと、今もこうして存続している赤城山コースは奇跡に近い存在にも思えてきます。当然、現在のコースは開設当初のものとは大きく異なり、おそらく 3 代目になるはず

です。

私が初めて訪れたのは、今から 21 年前の昭和 60 年 4 月 28 日。高校に入学したばかりの頃で、実はこの 4 日後に高校の研修で再度この地を訪れています。開設から 10 年経過しながらも初代コースが現役で、地図も 1:25,000 の古典タイプ。設定も今より南に大きく展開されていたのが特徴で、現在より 2 km 長い標準的な 10 km コースでした。

当時と変わらないのはスコア O L 用に P C 以外にも多数のポストが設置されていること。かつては、スコアのみ使用するポストは、紅白の塗り分けが P C とは逆の左上から右下にあり、明確な区別がなされていました。現在は全てが同じ小型のポストに置き換えられ、やや紛らわしくなっています。

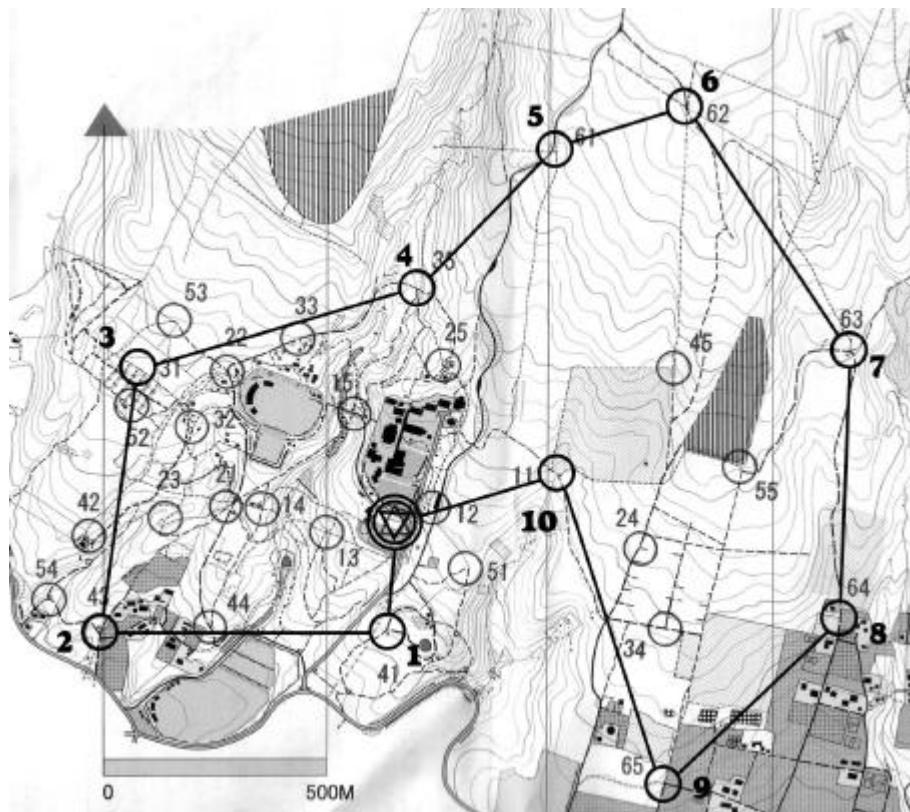
スタート地点の「国立赤城青年の家」はこの 4 月に独立行政法人の組織統合により「国立赤城青少年交流の家」と名称変更されています。現地までのアクセスは、両毛線「前橋」駅からのバスとなりますが、4 月 29 日～11 月 3 日までの運行となります。日帰り踏破を計画されている場合は、前橋駅発

8:25, 12:22 のいずれかに乗車ください。所要は 40 分程です。料金 750 円。

この日は埼玉県 O L 協会の高村さんと甲田さんが地図調査に出かけるというので、川越駅から同乗させていただきました。朝 4 時半起きではありませんでしたが...

お二人とは現地では別行動となり、私はマップを求めて事務所へ向かいます。窓口から事務員に声を掛けると、ここではなく階段をあがった上にある売店に置いてあるとのこと。スリッパを借り、案内に従っていくと、事務所からは 2 度階段をのぼったところで売店を発見。人の姿がなく、半信半疑ながら扉を押すと、女性が応対に出てくれます。マップを請うと、すぐにカウンターの下から取り出し、すんなりとやり取りが完了しました。1 部 100 円。マップ入手に苦労するコースが多い中であって、さすがは群馬と感心。ちなみにこの売店、レシートを見るとシーエスフードサービス㈱と記載されています( 027-288-3333 )。マップは平成 15 年 6 ~ 8 月にかけて調査されたものですが、再調査が平成 17 年 10 月に行われて一部手直しされています。地図にはスコア用に 30 箇所のポスト位置が全て記入されています。そのうちの 10 箇所が P C に指定されています。また、このうち第 1 ~ 6 と第 10 ポストを結んだのが今春新たに公認された B コースで、10 ポストのコースは A コースとされています。

案内板は南に下った駐車場脇の草むらにポツンと置かれています。以前の案内板も駐車場脇にありましたが、足場は整地され、横にベンチもありました。その頃とは随分様相が変わっています。夏草生い茂る中を歩いていくと、足場は不安定でちょっと危険すら感じます。群馬県協会の悴田会長のお話では、間もなく更新することになっているそうなので、この問題も早晩解消されるでしょう。掲示されているマスターに 8.5 km の A コースと 6 km の B コースに該当するポスト番号が記されています。印刷された丸印を結ぶだけなのでとても楽ちん。



## 整備されている前半

赤城の山裾、標高 500m の一帯に展開するコース。夏の日差しを浴びながら、9 時 43 分にスタートします。

まずは南に向かい、道路の東側にある「花木の森」と名づけられた一帯を目指します。道に従えばやや大回りになるものの、このあたりは植生も良く、直進が可能です。土塁を乗り越え進むと間もなく鮮明な赤色が目にとまります。青少年交流の家が独自に製作したというポストはかなり小ぶり、アルファベットの他にポスト番号が記されています。ちなみに第 1 ポストは No. 41 と併記されています。



樹木見本園に続く小道は「松風の道」。よく整備された遊歩道で、夏場も至って快適です。突き当たりを右に曲がると道路に抜け、そのまま向かいのテニスコートに沿った道路に入ります。この日は O L コースを活用した野外活動が催されていて、このあたりからしばらくは引っぱりなしにグループとすれ違い、挨拶を交わしていききました。耕作地と点在する民家の間を抜け、分岐で第 2 ポストを発見。ここは引率者の待機ポイントのようで、そそくさと後にします。

この先の南側一帯は「ヤシオツツジの丘」。栃木の県花にも指定されているツツジの見ごろは 5 月。時季はずれでした…。54 番ポストのある分岐を経由して深閑とした森の中を進みます。「富士見村水源地」への道と別れ、まっすぐな杉林の中に続く小道を進み、わずかながらショートカット。元の道と合流した先から今度は十字路を右折し、細い小径に分け入ります。整備状況抜群で、ぐいぐい歩いていける快適な区間です。52 番ポストを確認すると、第 3 ポストは目と鼻の先です。この第 3 ポストのように、土台がむき出しになったポストがいくつか散見されますが、これは冬場の霜の影響とのこと。これについては県協会で埋め直しを行うそうです。

軽く下り「多目的フィールド」や「谷

のキャンプ場」「山のキャンプ場」といった研修施設の横を抜けて行きます。途中の分岐も研修生に配慮してコースから外れるルートには進入禁止の看板が立てられています。公認 P C の場合、こうした研修コースとは外れて荒れ気味のルートを歩かされることが往々にしてあるのですが、ここは御相伴にあずかります。沢に向かって下り、小さな橋を渡ると第 4 ポストは分岐に立っていました。第 2 ポスト同様、ここにも野外活動グループの引率者が待機しています。

第 5 ポストまでの一般的なルートはここから東の斜面を登る遊歩道なのですが、一旦登ってまた下ること、子供のグループが相変わらず多いことを考え、南に向かう最短路を選択します。ところがこれが失敗。遊歩道であることには違いないのですが、小径は研修生が使用しないようで、夏場は藪に包まれています。まさかこのあたりで藪漕ぎをする羽目になるとは考えもしませんでした。一方ではオリエンティアの血が騒ぐことも否定できません。ぐいぐい歩を進め、尾根筋に到達。25 番ポストを確認し、すぐに下ると今度は分岐を北に向かいます。青少年交流の家の遊歩道ともここでお別れです。「鍋割山」へ向かう舗装道路を歩き、カーブミラーの奥にある第 5 ポストに到達します。

## 雄大な景色のコース後半

コース後半は距離を確保するために組まれたこともあり、ルートチョイスの観点からはやや興味が湧きません。しかしその反面、赤城の雄大な景観が視界一杯に広がります。道路から未舗装路へ右折すると、目の前にイノシシが草を食べていました。こちらドッキリしましたが、それはイノシシも同じようで、私に気付くと一目散で草むらの中に猛進していってしまいました。イノシシとの遭遇は岡山の「備前片上」コース以来 2 度目のこと。この時は親子と思われる 3 匹に道をふさがれ難儀しました…。この先の分岐に第 6 ポストが置かれています。周囲に高い樹木がなく、開放感あふれるポイントです。赤城を仰ぎ見られる絶好のスポットなのですが、この時は残念ながら雲に包まれていました。

富士見村と前橋市、そして旧大胡町との境になる「鶉山」を左手に見つつ、植林地を下っていきます。やや大きな砂利に時折足をとられながらも、大自然全てが自分のもののような気分が味わえる区間です。しかし、下るにつれ

て夏草に覆われ始め、第 7 ポストへは「脱出」といった様相まで変化します。

この先、道幅は決して狭くはないものの、しばらくは夏草や小さな蜘蛛の巣を払いながら歩を進めます。第 8 ポストの手前で突如舗装道路に変わり、一旦山道は終了。道路の舗装は道端にある「金丸配水池」の管理用と思われる。門扉の横には旧町名の「大胡町水道」の表記が残っていました。ポストは電信柱の後ろからひょっこり姿を現します。

第 9 ポストまでは最終盤の山道を前にして小休止のようなやさしい区間。とうもろこし畑が印象的です。「夏だなあ」などと暢気に歩いていくと、とうもろこしのひげが黄緑色のものと赤いものがあるのに気がつきます。収穫期を知らせるサインのようなもので、赤からさらにこげ茶色に変わってくると食べごろです。小径との分岐の第 9 ポストを確認し、いよいよ最終ポストです。

このまま小径を進むルートもありますが、私は北に向かい 34 番ポストを経由するルートを選択しました。オリエンティア以外の使用はほとんどないようで、夏草が勢いよく茂っています。遮二無二進み、第 10 ポストへの小道の入口に到達。この先は難なく歩け、道端でポストを発見します。ちょっと小首を傾げたポストです。ちなみにここは、開設当初のコースの第 5 ポストと同一地点になります。

そのまま小道をたどると青少年交流の家の裏に抜けることができ、所要時間 2 時間 6 分で歩き終えました。

このあと、埼玉と群馬の県協会のみなさんと昼食をご一緒させていただきましたが、私が子供の頃から P C 管理にご尽力されている方々に頭の下がる思いでした。群馬県では最も利用の多いコースです。リニューアルを機にまた訪れてみませんか。

(2006 年 7 月 30 日 踏破)

(大高竜亮)